

知的障害者水泳普及の条件検出のためのフィールドワーク調査

慶應義塾大学政策・メディア研究科修士1年
小松えり

1. 活動概要

本活動は、知的障害者水泳連盟への登録者数が多い、兵庫県、岐阜県、愛知県、静岡県
の4県において水泳のプログラム実施者と県の担当者へのインタビューを行ったも
のである。

調査実施日程は以下の通りである。

兵庫県 2018年8月5日～7日

愛知県 2018年8月7日～9日

静岡県 2018年8月16日～18日

岐阜県 2018年9月1日～3日

2. 活動目的

本活動は、知的障害者水泳普及の先進である4地域（愛知県・岐阜県・兵庫県・静岡
県）での調査を通じ、知的障害者水泳普及の条件を調査することを目的とした。

内閣府は、共生社会を目指し、障害者スポーツ振興を行っているが、共生社会と障害
者スポーツ振興の関係性は明確ではない。また、この分野は実践報告が多く社会的影響
について言及したものはない。

そこで、教育と就労の局面で健常者と別のなることが多い知的障害者を対象とし、知
的障害者のスポーツ・レクリエーション活動の中で、最も多い実施種目である水泳に着
目し、その普及要因を探った。

3. 活動内容と成果

① 知的障害者水泳プログラム実施者へのインタビュー調査

各地域の知的障害者水泳を対象としたスイミングクラブを訪問し、半構造化イン
タビューを行った。インタビュー内容は県地域統一で以下の通りに行った。

- A) 動機
- B) 開設の経緯
- C) 開設時の壁
- D) 現状の課題
- E) 日本の知的障害者水泳の課題

② 知的障害者水泳参加選手の練習見学、交流

時間を取り、インタビューを行うことは難しかったため、練習を見学させていただき、空き時間に数名の選手と話すことができた。

選手の参加動機や継続動機を調査する方法を考える必要を感じた。

③ 知的障害者水泳参加選手の保護者へのグループインタビュー調査

静岡県において、調査当日の練習に参加した選手の保護者3人を対象に、グループインタビュー調査を行った。継続年数が全員5年以上と長く、レベルや障害種別は統一しなかった。

水泳を始めた動機、継続できている要因、保護者として期待すること、現状の課題について質問した。

④ 日本知的障害者水泳連盟登録選手へのアンケート調査準備

フィールドワークでアンケート調査を行うことができなかつたため、改めてアンケートを送付し回収する。

4. 今後の展望

フィールドワークのインタビュー調査で録音した音声から、普及要因の検出を行い、全国にアンケート調査を行う。その結果をもとにして、普及していない地域を対象にして、普及活動を実践的に行いたい。

5. 謝辞

本活動の実施にあたり、資金援助をしてくださった湘南藤沢学会に感謝致します。